

平成29年白老町議会総務文教常任委員会会議録

平成29年2月15日（水曜日）

開 会 午前10時00分

閉 会 午後 0時 5分

○会議に付した事件

所管事務調査

1. 学校教育施設と環境整備について
-

○出席議員（7名）

委員長	小西秀延君	副委員長	及川保君
委員	大淵紀夫君	委員	吉田和子君
委員	吉谷一孝君	委員	前田博之君
委員	西田祐子君		

○欠席議員（なし）

○説明のため出席した者の職氏名

教 育 長	安藤尚志君
教 育 委 員	松本 功君
教 育 委 員	野瀬征宏君
教 育 委 員	吉良哲子君
学 校 教 育 課 長	岩本寿彦君
学 校 教 育 課 指 導 主 幹	井内宏麿君
学 校 教 育 課 主 幹	藤澤文一君
学 校 教 育 課 主 査	小山内 淳君

○職務のため出席した事務局職員

事 務 局 長	南 光男君
主 査	増田宏仁君

◎開会の宣告

○委員長（小西秀延君） ただいまより総務文教常任委員会を開会したいと思います。

（午前10時00分）

○委員長（小西秀延君） まず始めに所管事務調査に当たりまして私から一言ご挨拶をかねて自己紹介もしたいと思います。本日の所管事務調査の担当でございます総務常任委員会委員長をさせていただきますいております小西と申します。きょうは限られた時間ではありますがどうぞよろしくお願いいたします。

総務文教常任委員会では、学校教育施設と環境整備について学校教育課長より各調査項目の説明を受け、2月6日と9日、2日間で各小中学校の現状について調査してまいりました。本日は特に学力向上の取り組み状況、白老町スタンダードの取り組み課題などについて、限られた時間ではございますが教育委員の皆さまと意見交換を行いたいと思っておりますので、忌憚のないご意見、ご要望などあれば承りたいと存じます。きょうは形式にこだわらず懇談方式でとり進めてまいりたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。議会側から自己紹介という形でご挨拶をかねてよろしくお願いいたしますと思います。

副委員長。

○副委員長（及川 保君） 総務文教常任委員会の副委員長をおおせつかっております及川といたします。どうぞよろしくお願いいたします。きょうはざっくばらんなお話を伺いたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

○委員（前田博之君） 前田です。よろしくお願いいたします。

○委員（吉田和子君） 吉田和子と申します。よろしくお願いいたします。

○委員（大淵紀夫君） 御苦労さまでございます。大淵でございます。よろしくお願いいたします。

○委員（西田祐子君） おはようございます。西田祐子です。きょうはよろしくお願いいたします。

○委員（吉谷一孝君） おはようございます。吉谷一孝です。どうぞよろしくお願いいたします。

○委員長（小西秀延君） それでは教育委員、安藤教育長からお願いします。

○教育長（安藤尚志君） きょうは大変貴重なお時間をいただきましてありがとうございます。どうぞよろしくお願いいたします。安藤でございます。

○教育委員（松本 功君） 教育委員の松本といたします。よろしくお願いいたします。

○教育委員（野瀬征宏君） 教育委員の野瀬です。どうぞよろしくお願いいたします。

○教育委員（吉良哲子君） 昨年10月1日より教育委員を拝命されました吉良です。よろしくお願いいたします。

○委員長（小西秀延君） 皆さまのところに資料いっていると思いますが、白老町スタンダードの教育方針などについて、ざっくばらんにご意見、また、教育委員さんに聞きたい、議会側からいえばご質問等がありましたらどうぞ。

○委員長（小西秀延君） 吉田委員。

○委員（吉田和子君） 今回各学校を回らせていただきまして、白老町スタンダードにのっとり学

力テストの平均点以上を目指すという、そのことについての課題等に大変細かく取り組んでいる、中には家庭学習が大変1番遅れているというのがどこの学校もありまして、家庭学習のあり方を学習ノートを展示したりすることで子供たちの意識の向上を図っているというようなお話がありました。私も真剣に平均点をクリアする、いかにするかということに取り組んでいるということが、肌を感じながら今回視察をさせていただきましたけど、1つ全部の学校に聞かなかつたのですが、萩野小学校へ伺ったときに、秋田県能代市から先生がいらして実践の教育をやっている中に、大体地元の教師と登別市の教師と120人ぐらいが参加して実践教育を学んだということなのですが、秋田県のほうは最低だったはずなのです。意識をかえて取り組んだことで最高の点数を出すような結果になったということで、参考にしたらということが議会でも何回か出て、今回このような運びに持っていかれたということではないかと思うのですが、今回そういう場をつくって教師の意識、子供たちは意識がかわるってことはあまりないと思うのですが、教師の意識がかわること、学んだことで今後の学校の学力テストに対しての姿勢だとか、かわっていくとか、まだまだ学ばなければならないことがどういったことなのかお聞きしたいと思います。

○委員長（小西秀延君） 安藤教育長。

○教育長（安藤尚志君） 先日1月に、お話がございましたように秋田県能代市の教育委員会との連携授業ということで、指導主事という役職の方でございまして、先生方の普段の授業について指導、助言を行うのが役職、仕事の方をお呼びして、具体的に秋田県で行われている授業を見せていただきました。その前に昨年の秋に白老町からも各学校の代表が秋田県能代市にお邪魔をして、能代市内の学校の様子や授業の様子を参観させていただいて、大変多くの感銘と感動を受けて帰ってまいりました。あまりにも白老町と違いすぎるというか、こんな授業なのかと具体的に目にするのができた、非常に大きな感動があったのですが、感動はごく一握りの感動で終わってしまったので、ぜひ町内全体で感動をもう一度共有できないかということで、向こうの教育委員会と相談させていただいて、それでは一人指導主事を派遣させて授業をさせましょうということで今回4月の授業に至りました。ほぼ全教職員が町内においては参加いたしまして、体育館で行われた授業ですのでそれを皆で1時間授業を参観することができました。とても私にとっては意味のあることだったと、参加した教員も皆同様に、昨年秋田県に訪問した教員と同じように秋田県の授業を目にすることができましたし、感動も共有することができました。本当に大きな授業でしたけど、教育委員会としてはこれで全てがかわると思いません。この授業については、引き続き次年度以降も、秋田県能代市に派遣をして、そしてまた能代市から来ていただいて授業を見ていただくとか、授業をしていただくとか、こういう授業を少し継続しながら職員の意識をかえて少しずつ力をつけていきたいと考えております。

○委員長（小西秀延君） 吉田委員。

○委員（吉田和子君） いろんなものの報道やいろんなものを見ていると、10年前よりも小学生の不登校数が45%ふえて、中学生の不登校数が16%ふえているというデータがあったのです。私も何が要因で調査をした方もまだつかみきれていないのですが、中には学力テストの平均点を上げるための勉強のプレッシャーみたいなものに負けて不登校になっている子供がいるという状況が、ある調査結果が出ていたのです。何校かは聞いたのですが、何人かはプレッシャーを感じている子供

はいるかもしれないけれど、あまりそこまではいってないと思うというお話もあったのですが、教育委員の皆さん方も、白老町スタンダードを白老町が実行して学力テストの平均点数を目指す、どこの学校も必死になってそのところを取り組むことをやっている、もちろんほかの授業もやっているのですが、私たちもそのことについて視察したものですから、きょう強調して残ってしまったのですが、学力だけが子供の勉強ではないと思うほうですから、そういうことがプレッシャーになって学校に行けなくなったのではなく、家を建てるのに土台をつくる人、建てる人、住む人とそれぞれ役割分担があり、その子供にふさわしいものを見つけ出すことも勉強なのではと思うほうなものですから、その辺でスタンダードと学力テストの取り組みに対して教育委員さん方のほうで考えていることはあるのでしょうか。

○委員長（小西秀延君） 野瀬教育委員。

○教育委員（野瀬征宏君） 私は6年ぐらい教育委員をやらせていただいているのですが、古俣前教育長から教育に関して、皆さん学校へ行ってわかったかどうかわからないのですが、カンペンケース、筆箱がなかった。鉛筆、消しゴムの必要最低限の物しかおいていない。こういった物は触ることによって時間をとられたり、そういうことをはぶきながら学力を集中させたり、勉強をする時間を長くする、その積み重ねが今結果に少しずつでてきて、これから教育長がかわりまして能代市の新しい風を変化させていく、成熟しているのかなと受け取っています。私もこれをやることによって学力が多分上がっていくのかもしれませんが、最終的に心を将来に向けてそれが1番大切だと思っていますので、将来に向けて耐える心、今小さい子供のいじめやいろんなことがあるのですが、大人になってもそれ以上のことがあるので、そこに耐えられるもの、見ることも教育の中で大切のかなと思っていますので、そこら辺を両方併用しながら、学校との監視とか見さしてもらって、質問等もいろいろとさせていただいているので、そういったことで学力が上がってきているのかな、いろいろなものをはぶきながら集中できる。その中で家庭環境のあまりよくない、1年生の入学式で2時間遅れてきた子供がおります。それから1週間以上学校に来なくて、ほぼ半分そこから不登校の状態に入っている。これは子供がどうのこうのというより家庭環境、親の問題もありますし、そこが義務教育で親のしつけができない、なかなか難しい議論で、どこの現場でも青少年育成の関係でもいうのですが、そこら辺の底上げをやっていかなければ、なかなか底辺の子供たちの底上げができないですし、学力でやろうとしているのは低い子供たちをいかに上げていくか、平均点が上がるということを目指しているのだから、プレッシャーとかその辺の手厚さが向いているのかな。上の子供たちは上の子供たちでどんどん伸びている環境をつくっているのだからその辺の環境のかわり方は、めまぐるしく5年、6年でかわってきているのを見てきましたので、ご説明させていただきたいなと思いました。

○委員長（小西秀延君） 安藤教育長。

○教育長（安藤尚志君） 学力向上という言葉の解釈なのですが、ただ点数を取ればいいという短絡的な考えではなくて、義務教育というのは、本来、生まれた場所や育った場所にかかわらず、どこで学んでも一定限同じような内容が子供たちに理解できるような教育をしていかなければと思っています。そういった意味では、白老町だけではなく北海道と本州という大きな2つで見たときに、そこには同じ義務教育でありながら本州で学ぶ子供と、北海道で学ぶ子供には学力的な差は

横たわっていると思うのです。本当に我々は点数を上げることだけが目的ではなくて、きちんと教えるべきことは教える、これが1番の目的です。結果として調査をしたときに点数が伸びていくということが結果の問題であります。ですから、エスカレートして、加熱して点数を上げることが学力向上ではなくて、きちんと子供が授業を楽しみながら理解していく、そういう授業を先生方がどうやったらできるのだろう、そのことを常に横道にずれないできっちり見つめながら今取り組んでいるところです。野瀬委員も言われたように成長発達には学力も大事ですけど、心の発達とか、体だとかこの3つがきちんと調和して育てていくことが大事だなということが、お互い教育には皆さんご理解いただいているのかなと思っております。

○委員長（小西秀延君） 松本教育委員。

○教育委員（松本 功君） 2日間の学校訪問に行っていただきましてありがとうございました。私たちが学校訪問ということで学校が始まって6月、7月ぐらいでしょうか。学校訪問に行って校長先生とお話をさせていただくのですが、行った瞬間の学校の入ったときにどういう環境なのかというのをまず私たちは見ます。子供たちが元気なのか、挨拶できるのか、それが基本に学校に入ったときの瞬間を感じ取れるのかなと思います。授業の中でも学校の先生の服装、今野瀬委員が言った机の上の物とか掲示、どういう掲示をされているのか注目しながら学校訪問に行っております。いろんなこともありますが、学力向上については教育委員の研修会が毎年ありまして、きょうあるのですが、その中で学力向上についてどうですかと、4、5年前、もっと長い前から学力向上はどうしたらいいのか教育委員の研修で話をするのですが、私がもともとと思っていることは、国語、算数、数学この2つだけで学力がどうなのかっていうことを調査するのはだめなのかもしれないですけど、それだけで子供を決めてしまうのはどうなのかなと前から思っています。本当に子供が学校を卒業して、社会に出て、社会に適応できる子供を育てることができるのか。国語ができなくても絵が描くのがすごく好きな子供がいるでしょうし、体を動かすことがすごく好きな子供がいるでしょうし、本当に難しい学力調査なのかなと思います。1つの数字を見るためには仕方がないのかなと思っております。不登校の子供についても先ほどもいいましたけれども、やはり家庭なのかなと思います。いろんな家庭の事情があって、朝ごはんを食べてこない子供もいるでしょうし、家に帰った後のことを考えて学校で授業に集中できない子供もいるのかもしれないです。その中で一律に考えるのもどうかなと思うのですが、家庭が第一かなと思います。教育委員もやってきますけど家庭が1番かなと日頃から思っていることです。

○委員長（小西秀延君） 及川副委員長。

○副委員長（及川 保君） 学校訪問、教育委員さんとの懇談、本当に久しぶりだったのです。少し心配していたのは小学校3校の統合です。子供たちがどういう状況で学校生活を送っているのかなと非常に心配もあり、その状況を知りたいなという思いで訪問させていただきました。授業状況も若干見させてもらったのですが、挨拶もしっかりしてまして、校長先生、教頭先生のお話を伺っても特に大きな支障はないのだと、その前に中学校の統合もありましたけど、中学校も非常に皆さん礼儀正しく、挨拶もできる状況も拝見させていただき、とりあえずほっとした感じで印象受けました。最近では社会の状況の変化が大きくて、大人はなかなかついていけないのですが、子供はそれなりにその状況をつかんで学校生活、家庭生活をしているのだなと実感として感じました。

心配なのは、日本全体にもあるように、いじめの問題、学力テストのこともありますけど、先ほど吉田委員のほうからありましたけど、私は学力だけで決めていくのは将来の社会生活をしていく子供たちが育っていく上においては、学力も当然大事なのだけど教育長もおっしゃっているように心も大きな大事な要素なのです。大人になったときにどういう社会生活を送れるかとなると、その部分が1番大きな状況になると思うのです。そういう意味においてはぜひ心を育てる、今家庭の話もありましたけども、白老町というのは漁業、農業含めて基幹産業の中で育っている子供たちもたくさんおられます。家庭の事情もいろいろとあるのだろうけど、不登校の問題もありますし、何とか子供たちを家庭も親も一緒に教育できるようなスタイルができていけばいいのかなと思うのです。家庭環境も含めた状況等をどのように感じておられるのか伺いたいと思います。

○委員長（小西秀延君） 吉良教育委員。

○教育委員（吉良哲子君） 私、教育委員になってまだ期間短いのですが、前に民生委員、学校評議委員やらせていただいたのですが、その中で参観を地域の方にも見ていただくことがきょうも白翔中学校でやっているのですが、たくさんの方に授業参観を見ていただいて、子供たちをいろんな各地域の方に見ていただく方向にしていることは素晴らしいと考えております。やはり家庭環境というか地域の環境です。私の娘が東京のほうに行って孫、双子を育てているのですが、そういうところでは子供の人数がすごく多く、1クラス50人ぐらい保育園にいるのです。その保育園に入れない子供は幼稚園。大体皆さまは夜8時過ぎぐらいに保育園、幼稚園に迎えに行っている環境なので、皆さんが子供たちのしつけをするというより、親のリフレッシュの時間もほしいと、働きながら子供たちの環境もつくるし、自分の子育ての環境がすごく整っているのです。白老町だと親だけで育てている家庭もあるかと思うのですが、私虎杖浜出身なのですが、やはり祖父母たちが協力して子育てにかかわっているところは、意外に子供たちの気持ちが優しいというか、生活面では親にはしつけられない年上の人たちのしつけの仕方というのが、以外にうまくいっているのではないかなということです。やはり白老町、萩野の方は核家族でたくさん環境があるので、子育ての時期に協力していただいた家庭は、意外に子供たちは安定して育っているのかなと私は感じ取りました。学力が低下というか家庭の中での親の意識、考えが子供たちも移っているのではないかなと私は感じておりました。

○委員長（小西秀延君） 教育委員さんのほうから要望とかこういう考えを持っているのですがというのがあれば、座談会方式でこういう話もしたいのですがというのがあればおっしゃっていただきたいと思います。

野瀬教育委員。

○教育委員（野瀬征宏君） 教育委員は事務方とまた違っていろいろな企業から参加し、いろいろな意見が言える、教育委員会をしっかり見守るという役員なのですが、その中で少し言わせていただきたいのですが、私は学校給食運営委員を教育委員をやる前にやっぴまして、給食には思い入れというのか、きちんと見てきたというところがあります。食育防災センターに関して、結果的に予算を削られる形で小さくなったのですが、これから箱ものはしっかり皆さんが理解してほしいと、あれは正直私は残念だったのです。小さくすることによって、今はアレルギー食もありますので若干小さくなっていますし、そこが狭まれている。せっかく投資したのに残念だなと、中の機材

もところどころ削られている。安心安全で暮らすためには、これから人は少なくなっていくのですが、その辺を勉強して投資するところはきちっと投資してほしいお願い、削るところはしっかり見て削ってほしいお願い。まちは変革して小さくなっていきますので、もちろん投資するところは投資し、投資しないところは削れる勇気も必要だと思うのです。特に教育委員会は箱ものが多いので皆さんから協議していかなければいけない主眼ではあるのですが、食育防災センターに関しては少し残念だったのです。出られるのなら本当は言いたいぐらい。食育も教育なのです。全部ひっくるめて教育で、この前竹浦小学校の子供が来たといっていたのですが、教育受けて食の勉強を受けて成人病とか白老町から勉強しているからそういうことにならなかったとか、1つの教育なので、その辺を全部理解しながらお金は少ないのかもしれませんが、本当に投資するところは投資してほしいかなというお願いです。今は防災関係の予算もついていますのでたくさん視察がきているので、そのときにここは不便だよねという話がでると残念なので、確かに予算的には厳しいのはわかっているつもりなのですが、給食は子供を育てる教育の場でもあるので皆さんも理解してこのまちを一緒に進めてもらいたい。私も思われのある人間なので、定例表彰を1つ挙げさせてもらいたいのですが、議員さんの参加率が少し悪いということは大渕委員も1番わかっていると思うのですが、何で定例表彰を受けているのか、受けている人たちの10年間の思いとか、町政の下で頑張ってきた人たちの思いを共有できない人たちには、申し訳ないのですが資格がないのかなと、少し厳しい言い方をしますが、周りも見えていますし一緒に味わってほしい。その辺を一緒に町政で前へ進んでほしいなど気持ちが少しありました。そこが正直残念だったと、そういうのをわかって町政行ってほしいというのがお願いです。申し訳ないのですが、ここは教育委員として教育委員会の後援でもありますし、ご理解をお願いしたいところであります。

○委員長（小西秀延君） ご意見ある方どうぞ。

及川副委員長。

○副委員長（及川 保君） いつもはもう少し多かったと思うのですが、ことは私も少ないなという思いが、野瀬委員のおっしゃるとおりかなと感じました。

○委員長（小西秀延君） 吉田委員。

○委員（吉田和子君） 最近、議会も反省しているのですが、いろんな行事の案内がたくさんあります。議会の行事も多いというのもありまして、皆さん取捨選択をしながら、だめだと思うのですが、仕事をしている方もいらっしゃいますので、議会の行事がないときに自分の仕事をするという方がいらっしゃって、若返った分ふえてきているのかなとありますけれど、私は昨年入院して出られませんでしたので、少なくなったなと私も実感していますので、これは議会として声をかけて行くようにはなると思います。給食センターのほうですが、これは議会も議論をしたのです。子供が減っているということを含めて、最低限設置するべきもの、私は給食センターを改築して設置するべきだし、アレルギー食もやるべきだし、食育もやるべきとずっと訴えてきました。ランニングコースも踏まえて、今後の白老町の財政を踏まえて、あのような形ということには最終的には議会も賛成をして決まったのですが、アレルギー食の部屋も見て少し狭いなど、ようやくアレルギー食ができて、大変な苦勞を簡単に質問してやってほしいと私言ったのですが、やるまでの経過を聞いたときに本当に頭の下がる思いをしたのですが、もっともっと自分が勉強して言うべきだっ

たかなと思うぐらい苦労されていたことが本当にわかりまして、学校、給食センター、家庭、医者もかかわって、本人との連携がかなり必要だということも含めて、このことが不便なところもあるでしょうけど、今後、子供の食育、防災センターとしての役割をしっかりとってやっていってほしいなということは、見守っていきたいと私は考えています。

○委員長（小西秀延君） 大淵委員。

○委員（大淵紀夫君） 今回学校訪問をさせていただきましてショックを受けたことが1つあります。施設等々、挨拶等々については想像した以上にたいぶ変化しているなど、古い人間になりましたので昔の感覚では全然だめだなと率直な反省をしたのです。ただ、一貫して子供たちの貧困化が進んでいるのです。10年ぐらい前は要保護・準要保護の割合が20%ぐらい、それが25%になったという状況の中で、実は白老中学校に行きましたらショックが多過ぎます。30%以上越している。これはいい悪いは別です。シングルで子育てしている方々が30%、要保護・準要保護がそれを上回っている。どうのこうのしなさいということではなく、学力向上を含めて、もちろんこの中でもきちんと勉強している子供たちもたくさんいると思うのですけれども、総じて言えばこういうまちの状況が、子供たちや出生率やそういうことには影響していないのかなど。そのことが問題意識として、もちろん教育委員さんの皆さん方も持っていらっしゃると思うのですが、そういうことも議論されているのかなと思っていました。それは学力向上のためにだとかそういうことではなくて、白老町の将来のことを考えたときに、子供の出生率の問題から、教育の問題から全ての点でそういうことがまち全体の問題意識になって、本当に子供たちを何とかしようとなっていけないと、私はまちの危機に繋がっていくのではないかと。30%以上といたら異常としか思えないのです。そこで打てる手は何なのかといたら、もちろん今1.1の準要保護率を1.5まで上げることは十分可能です、厚真町は1.5ですから。それが解決するかどうかわかりません。わかりませんが、何らかの議論が議会でも教育委員会の中でも共通の議論としていかなければ、まちの将来が、何かことしの出生率が50人前後と聞きました、100人割ってわずかな期間です、こちら辺は学力向上と同時にまちにどんな影響を与えているか、どこで解決策を見出すのかは難しいかもしれませんが、そういう議論がされないとは本当にだめかなと少し感じたものですから、そこら辺は教育委員会の中で議論されたり、問題意識を持ってやられているのかなど、議会の中でもやらないといけない中身なのですが、非常に今回ショックを受けまして異常かなと感じを受けたものですから。残念ながら白老の教育委員さん欠席みたいですが、地域関係ないですけど。

○委員長（小西秀延君） 安藤教育長。

○教育長（安藤尚志君） ご質問というよりも大淵委員のお考えをお伝えていただいたのかなと思います。貧困化の問題は本町で直面する大きな課題の1つだろうと思っています。学力向上ということでいえば、管内で1番学力調査の点数が高い厚真町は大体7%から8%という状況です。白老町は平均しますと白老中学校が30%超えていますけど、町内全体でいいますと30%を少し切るくらいほぼ30%とっていいかなど。ですから、その差をどういうふうにしていくかが大きな問題なのです。例えば学校のほうから教材費がきちんと納められないとかそのような課題も出てきております。教育委員会としてできることというのは、全てできるわけではないので限られているんですけど、今考えていることは、経済状況によって、非常に家庭状況が厳しい状況の中で育つ子供たち

もいるわけで、その生まれた家庭の状況によって学力がなかなか定着しないとか、いろんなことに挑戦する機会が奪われているとかをできるだけなくしていこうと、つまり公的な支援とかセーフティーネットのような形で広げていきたいというような話は教育委員会の中でもお話をさせていただいておまして、具体的にはまだまだ事業としては少ないですけど、昨年は中学校3年生の子供たち、進学を控えた子供たちが塾に行けない子供たちもおりますので、貧困を対象となると結構子供たちはうちは貧しいのかとなりますので、決してそのような言葉は使わないです。貧困という言葉は一切使わないで、子供たちの学習を支援していくという形で1カ月に1回進学塾を町で行いました。今度3月議会でも提案させていただきますけれども、検定試験のようなものを公費で出させていただいて、子供たちが家庭環境にかかわらず、いろんなところに挑戦していけるような場面を少しずつ広めていきたいなと思っております。いろんな手を打ちながらもなかなか貧困化に対する根本的な対応はなかなか難しいというか、後手に回ってしまうという部分は政策全般で企業の問題、働く場の問題、住宅の問題とさまざまな問題をかかわり持っているのですが、特に教育における経済状況の厳しいご家庭に関してはいろんな手立てをこれからも考えていかなければならないかなと思っております。

○委員長（小西秀延君） 今まで話されたテーマも含め、またほかにテーマをお持ちの方がいらっしゃいましたら、座談会形式ですのでお気軽に発言をしていただければ。

吉谷委員。

○委員（吉谷一孝君） 吉谷です。野瀬委員からのお話で私から一言言わせていただきたいことがあります。私も議員になりまして、いろんな意味で、吉田委員もおっしゃっておられましたけど、私も議員になって公務がまず第一優先ということで全てやってまいりました。もっと言わせてもらえば、私5人の子供がいますが5人の子供の卒業式、入学式、公務がかかわったために出席ができなかったことが何件もあります。私は自分で選んだことなので子供にもそう伝えておりますし、そういった形でやってまいりました。一面的にどこかに参加できないから議員としてという考え方は持たないでいただきたいというのがまず1つ。そういった理由で個々の議員が出席しないというのはないと思っておりますので、何らかの諸般の事情があって出席できないことがあるのがたまたま重なったのかなと思いますのでご理解いただきたいと思います。私が驚いたのは、今現場でいろいろな学級に分かれて授業がされているということ。現時点ではその子供たちにはいいことだと思うのですが、将来的なことを考えたときに、本当にそれでいいのかなと私の中で疑問があったのです。当事者もそうですけど、普通にいる子供たち、健常であると判断された子供たちにとっても、逆にいうと社会に出ると皆同じ土俵で生きていかなければならないと考えたときに、本当に細かく配慮して教育することがいいのかなと私自身疑問に思った部分でもありますし、私も仕事をしている中でいろんな人間とかかわって仕事をしていかなければならない立場がありますので、そこを考えたときに、本当にこういうやり方が正しいのかなと疑問に思ったところですし、子供たちの今後にとってもどうなのかなと思ったのですが、その辺について皆さんはどのように考えているのかお伺いしたいのです。

○委員長（小西秀延君） 安藤教育長。

○教育長（安藤尚志君） 特別支援教育のお話をさせていただいたと思うのですが、特別支援学級

を、例えば知的の学級、情緒の学級を新設にするにあたって守らなければならないことがありまして、それは1週間に20時間ぐらい個別の指導をしなさいよという決まりがあるのです。そうでなければ特別支援学級の開設が認められないのです。法的な根拠に基づいて個別の指導もやらなければいけない。あと、残り時間がありますので、残り時間に関しては私も胆振管内全部わかっているわけではないのですが、自分の知る範囲においては、白老町というこの地はかなりの部分で通常の学級の子供たちと交流をしている地域だなと理解しています。国の流れというか、教育の流れは、障がいを持っている子供も障がいを持っていない子供も、できるだけ多くの場面で一緒に学びなさい、インクルーシブ教育というのですが、これをやりなさいという流れになっていて、白老町ではそういった意味ではまだまだ不十分なところがあるかもしれませんが、流れとしては非常に今教育の流れをきちんと押さえながら対応しているかなと。特に学校でかかえている課題は、障がいのある子供たちよりも、発達障がいの子供たちが多くなってきているのです。ADHD、そういう発達障がいの子供たちは通常教育に在籍しているのです。白老町では通常指導教室に行っておりますけども、小学校で大体50人ぐらいは通っていますので、割合からいえば、ある意味特別支援学級に通っている子供たちよりも発達障がいの子供たちのための教室のほうが人数はふえてきている。この子供たちは1週間に1回か2回通常指導教室に行きますが、8割、9割は通常学級に在籍しておりますので、いろんな人間関係、対人関係でのトラブルだとか、なかなか集団に適応できない子供もおりますので、そういった子供への指導が非常に大きな現場としては課題になっているのではないのかなと思います。

○委員長（小西秀延君） 前田委員。

○委員（前田博之君） 特別支援学級の設置の条件としては施設を充実した中でないと学級として認められないという部分も言っておかないと、なぜ支援教室だけ独立しているのという言い方になってしまうので。

○委員長（小西秀延君） 安藤教育長。

○教育長（安藤尚志君） 昔これは特殊教育という言い方をしてしまして通常の子供たちとは全く別のところで行われた教育でした。今は特別支援、特別な支援という言い方になりまして、一人一人の子供たちの指導の仕方もそれぞれの障がいを持っている状況に応じてしなければいけないので、それは一般の教室の中に入ってすぐできるものもありますけど、できないものもありますので、分けるところは分ける、できるところは一緒にやるという部分の調整は常にさせていただいて今に至っております。

○委員長（小西秀延君） 野瀬教育委員。

○教育委員（野瀬征宏君） この問題は少し難しい問題なのですが、私は昨年、一昨年ぐらいに学校訪問をさせていただいて、ある学校のほうで発達障がいの診断を受けるであろうという子供がいたのですが、授業を見た中でテーブルを持って10メートルぐらい教室の中を走るので、授業中に。その子供に関しては親の圧力があると聞いていたのですが、家ではお利口なのです。学校で表現を主体に発達障がいという診断を受ける、親も信じない、認めない、1年以上かかったのですが、そういう状態の中で授業をしていたという現場をきちんと見られたという面では良かったのかなと。親も子供を認めない事情というのがあるのです。そこら辺を理解しながら、あの場面で

はあの子供は普通教室では適切ではないのかなと。話すことによってきちんと指導を受けてまた入ってくるというのが特別支援の役割なのではないのかなと。いろいろ話したり入れたりするのは難しい問題なのですが、どこかのまちで支援がなくて全部入れてやっている。これも本当に難しい課題ではあるのですが、現場で見させてもらったので、確かに難しい問題なのかなと。親もその場で認めて、きちんと話して、きちんとした教育を受けて戻ってくればそういうことはなかったのでしょうけど、そのクラスはものすごく学力が低かったと、授業にならなかったのです。当然、ならない中でやっていたので、周りの子供たちの足を引っ張ったことに関しては残念だった。手が打てなかった、教育委員会としてきちんと説得しながら少し時間がかかった。こういう現場の現状があるということも皆さんにも理解してもらいたいなど。現場へ行って初めて見させてもらったので、こういうこともあるのだなと勉強させていただきました。

○委員長（小西秀延君） 前田委員。

○委員（前田博之君） 地域から教育委員さんもいらしていますのでお聞きしますが、今まで議論されています学力向上が全てだと私は思っていません。ただ、委員さんから学力向上をどうしたらいいかということ、教育委員の研修もあるよとそれぞれの認識の中で判断されていると思います。私は、学力向上というものは子供の将来の夢を選択させる可能性を秘めていますので、そのためにも学力調査で一定の地域の力をつけてあげなければ、そこから送ってあげる義務はあると思いますので、そういう観点から聞くのですけれども、統廃合していますけど、どういう条件かは別にして小学校は最低限各地域にあるべきだと思うのです。その議論は別にしてです。あとは地域の方がこういう状況だから統合してくれという意見があるのなら考えるべきだと思う。何を言いたいのかといたら、今竹浦小学校、虎杖小学校へ行ったら複式学級なのです。虎杖浜のほうが多いのです。それがいいのか悪いのか別にしてです。1点として、今そこまで進んでいるので、複式学級のデメリット、メリットを教育委員会としてどのように押さえて、それが学力向上の中でどういう状況の認識をされているのか。各地域の小学校で複式学級をやっているけれども、地域として統合してくれとか、複式学級充実してやるとか、我々から言わせれば地域の振興を図って少しでも人口をふやして云々と、学校無くなったらとか議論はあるだろうけど、それは別にして、教育委員として、今複式学級が現実になってきているのだけど、地域における学力向上とか子供の交流、団体生活のその部分、その2点についてどのような考えがあるのかお聞きします。

○委員長（小西秀延君） 安藤教育長。

○教育長（安藤尚志君） 少子化に伴う学校の状況ですけど、現在教育委員会で持っている適正配置計画というのがございますが、これには複式学級の解消というのが1つ挙がっています。今お話があったように、複式学級はすでに存在しておりますので、実態としてはすぐわない状況があります。1つは適正配置計画を見直していかなければならないだろうと思っております。これから子供の人数によって複式学級になったり単式学級になったりする変化があるのです。その部分は見えていかないかと思っておりますが、教育委員さんとも正式なテーマで、議題としてこのことについて詰めた話はしていませんけど、学校の状況としては全ての学年が複式学級になった場合、完全複式といいますけど、1、2年、3、4年、5、6年、全て複式学級になったときは子供の数が20人、10何人というような状況ですので、このような状況では教育活動、学力向上ばかりではなくて全て

の教育活動において制限が加えられますし、子供が活動できるのも限界があると思うのです。そういった意味では子供たちの学習をしていく環境をどうしていくか、よりよくしていく必要はあるのだろうとっております。もう1つは、地域と共にある学校という言葉が文部科学省も使いました。これはやっぱり学校というのは今まででもそうですが、これからは文化や人々の心のよりどころという意味合いで、地域と共にある学校というのは非常に大きな存在でありますので、本当に統合にかかわることは大きなことだなど、今まででもそうでしたけど、これからはより子供が少なくなって、ただ統合すればいいというのではなく、地域の方々とかかわりを通していくのは大きな課題とっております。また、現実的には子供の数がどんどん減ってまいりますので、本当に近々の課題として教育委員会でも十分皆さまと協議をしたいと思いますとっております。

○委員長（小西秀延君） 吉良教育委員。

○教育委員（吉良哲子君） 私も参観日に行ったとき、5、6年と1、2年が複式学級だったので。先生が一人で、片方の学年をもっていると片方は自習をしている。質問をしたいけどできないし、友達同士でいろいろ話してくださいということだったのです。子供たちには結構大変な問題だろうなと思っていました。子供の人数が少ないから、複式学級は決まったことだから、仕方がないのでしょけれど、自分が何かをやっているときに、すぐに先生に質問したり聞いたりできる環境が小学校の授業の内容じゃないかなと思います。地域から竹浦小学校、虎杖小学校、中学校も統合して萩野へ行っている。また統合になると地域で学校が無くなるということは、1番地域のものとしては大変な事態かなと思います。子供をふやしてほしいと思うのですが、なかなかこれはことしも50人前後ということなので子供を見る数も少ないですし、高齢化も進んで活気がなくなってきて、小学生が歩いていないということになると、地域もだんだん発達しないのかなと思うのです。自分たちがいろいろ活動して、親御さんと話しをしたり地域の方々と話しながら、複式学級をやっても、先ほどの特別支援の先生がいて、その先生がこっちのほうへ入っていただくとか、そのような授業もしているのですよと話をしていたので。今のところは子供たちもそんなに不自由していないと思うのです。これから5、6年たったときに本当に子供たちの人数が30人前後になってしまえばかわいそうなので、地域と保護者の方と話していく議題ではないのかなとっております。

○委員長（小西秀延君） 前田委員。

○委員（前田博之君） 教育委員会制度が変わりましたよね。学校では液晶テレビが不足しているとか、実物投影機が不足している。教育委員さん方も学校めぐりしていろいろ聞いていると思うのですが、いい意味で施設充実、現場で足りないものの優先順位をつけないといけないと思うのだけれど、もちろん予算要求していかなければならないと思います。そのような部分も教育委員さんが、言葉がいいのか悪いのかわかりませんが、1つの圧力団体なので、やはり教育委員会として予算要求なり限られた中で優先的につけてもらう、こういうことがあるのだと声を挙げていただきたいなと思っております。現場でも、実際に見たら古いテレビが置いてある、そういう部分が現場の先生の声として大事だと思うのです。その部分の声を把握して、学力向上の教育議論していますが、施設充実、機材の充実、時代に沿った機材の充実してあげなければいけないのかなと、物だけあればいいというのではなく、その辺いかがでしょう。

○委員長（小西秀延君） 野瀬教育委員。

○教育委員（野瀬征宏君） 私も先ほど言いましたけど、施設のあり方、まちが小さくなっていく上で投資するにも幅広く投資しなければならない。これはお金がかかるのは事実なので、全部の子供たちに同じ条件で与えるということがなかなか難しくなってくる中で、そここのところをどうしようかという話ですよ。与えるのは予算を通してもらって与えるのは簡単なのですが、教育の中で統廃合して、1つに集約して、そこにきちんとお金を入れていくのか、そういった議論もギリギリのところに来ている段階です。学校施設も古くなってきているので、その修繕費を考えると、なかなか集約してやったほうが私は合理的というか、少ない中で、複式学級でやるということが、中途半端な複式学級は言い方悪いのですが、10人の5人を見ていると授業が苦しいのです。10人に対して5人でやる、2つの学級でやる。完全に小さくなって2、3人の中でやることに関しては何とかなるとみているのですが、その辺の複式学級の難しさを理解してほしい。虎杖浜に親戚がいてまして女の子が2人だったらいいのですが、その子とこじれるともう逃げ場がない。子供の位置関係があるのでしょうか、私はなるべく人を多くして、本当に人間関係なので喧嘩したり仲間になったりするのですが、悪い子供がいたらそこから離れるとか、そのような状況もつくってあげるのが教育ではないのかなと。私の意見としては、まとめてまれながら社会に行く、そのような方向でお願いしたいと教育委員会のほうに言っているのです。ただ、少数の学校のメリットももちろんありますが、お金に関しては難しいのかなと。私としては、まとめて学校教育を充実して、きちんとした人間関係の中で育て、1カ所に集中してお金を入れるということが今後の課題でもあるし見定めではないのかなと。教育だから何でもかんでもばらまくというのは、これからそのような時代ではないのかと思います。人数も5年前から70人っていうのは聞いています。70人が3年ぐらい続いて12月で50人という出生数は教育委員としても必ず把握しています。ここは町政と協力して企業をどんどん入れて、太陽光パネルもわかるのですが、土地を売ってしまうと企業も入れなくなるので、そういうことも示唆して、人を入れないと減っていくばかりなので、人の入れかわりというのも大切に町を守ってほしい。緩やかな下がりかたならいいのですが、急激な下がり方はまちが対応できなくなるので、過疎債など今ありますが、そのようなものには頼らず、緩やかに少なくなるのはわかるのですが、町長部局と協力しながらやっていかなければならないと。何もしなければ何十年後には1万人を割ってしまうデータが出ていましたので、子供のいないお年寄りのまちになってしまうので、そうであっては今後未来がないというか、教育の現場は未来の子供たちを育てる場なので、皆さんと協力していかなければならない。投資するところは先ほども言ったようにきちんとした形をつくってやっていくというのが私の教育委員会での訴えというか、統廃合もそういった意味でお金のためにやるのではないのですが、子供たちのためにしっかりやっていくというのが訴えです。

○委員長（小西秀延君） 前田委員。

○委員（前田博之君） 教育の中において教育を指導する教育の危機として子供たちが不足しているよと、仮に理科の実験で実物投影機が少ない、これは授業に支障をきたしている部分があると思うのです。そういう部分が現実として子供たちの学力向上に結びつくのだろうけど、その部分が先生方と十分意見を交換して、何が必要で機材を優先していくのか、そのようなことが教育委員さんとして予算を集中化してつけてほしい考えを持って、いい意味で町長に話をしてほしいと、そのよ

うな質問なのです。

○委員長（小西秀延君） 安藤教育長。

○教育長（安藤尚志君） 議会でも前田委員のほうから学校図書の充実ということでもありましたし、学びの環境いかに整えていくかということが教育委員会として大きな役割というか使命ですので、これについては取り組んでいきたいと思うのです。一方では、ICTも含めて非常に金額的にも児童生徒のパーソナルコンピュータ全部を入れかえれば数千万円が一度に出してしまう状況がありますので、その辺は財政状況を踏まえながら、できるところから充実させていきたいなと思っております。

○委員長（小西秀延君） 前田委員。

○委員（前田博之君） 視察して図書室が素晴らしくなっている。司書さんがいて、これだけは子供達も大変喜ぶし、努力は非常に認めます。あともう少し、司書一人がふえればもっとよくなりますね。白老中学校が改築で図書室広くなるから非常にいいことだなと思いますので、ぜひ、そのような部分では読書は大事ですから、視察に行ってきたよかったです。

○委員長（小西秀延君） 西田委員。

○委員（西田祐子君） 私も前田委員と同じ考え方を持っていて、これだけ子供たちが減ってきている中で、少数学級、複式学級をやっている中で、親御さんの不安は非常に大きくて、不安の1つが、統合された中学校に行ったときに、今度そちらのほうで潰されてしまうのではないかと、また不安になってくると。複式学級がもっとも有効的な教育の手段の1つであるとモデルになるくらい、ある程度教育委員会もお金をかけてもいいのではないのかなと、私は反対に思っているくらいなのです。これから先白老町が今年度は60名で、昨年度は57名です、子供。そうなったとき、ほとんどが複式学級になっているのではないのかなと思うのです。そうなったときに、本当に先ほど10人に5人ではきついとおっしゃいましたが、このような状態になってくる中で、今から今年度もふるさと納税、教育の部分で寄附がたくさん集まっているので、教育委員さんのほうも声を大にして、このようなことを研究するために予算を使わせてくれと言っていただきたいと思うのです。私たち正直いって子供も小さくないですし、孫、甥っ子、姪っ子となってしまうので感覚がずれてしまうというのか、本当に親が求めているもの、子供たちが求めているもの、複式学級でも素晴らしい教育ができるのだというものを1つつくってほしいと思っています。もう1つが、地域との交流ということで、今白翔中学校の野球部が全国大会に行かれるということで寄附が集められています。白老中学校の吹奏楽部が吹奏楽の楽器が足りないということで地域の寄附を集めたとか、私はそのようなことはいいことだと思うのです。どれだけの金額が集まるか集まらないかはおいといて、自分たちのところにこのような中学生がこのような活動をしていますよ、小学生がこのような活動をしていますよと具体的に知るチャンスになるといいですか、白老町が高齢化してくると本当に自分のお孫さんたちも近所にいないので、きょうも新聞を見てきたのですが、きれいな50歳、60歳、70歳、高齢者のモンスターがふえてきて、子供たちを虐待したりいじめたりする事例がふえてきているという新聞記事やインターネット上でも見まして、やはり、ふれあいがなくて子供に対する愛情というのが減ってくるので、どんどん地域に発信していけるようなものを考えて出していただければありがたいなと思っています。この2点について教育委員の皆さんはどのような考えをもって

いるのか。教育委員の皆さん方は今白老町で1番求められることはどのようなものなのか教えていただきたいと思います。

○委員長（小西秀延君） 安藤教育長。

○教育長（安藤尚志君） 西田委員のほうからモデルになるような複式学級というお話がございまして、いろんな取り組みができるのだらうなと思います。結論から申し上げますと、私は複式学級を解消すべきというのが大前提です。学習内容を子供たちに理解させるのは、複式学級でも単式学級でもそんなに難しいことではないと思っております。1番大事なのは、子供たちが同じ教室の中で磨き合うことができないということなのです。例えば1学年5人だと男子と女子の数の問題もありますし、お互いグループ学習ができない、運動会で赤、白ができない、本当に日々毎日毎日の教育活動にいろんな制限が出てきてしまうので、ここが1番大きな課題だなと思っております。当面は複式学級をかかえているわけですから、そのような学級の子供たちも、単式学級の子供たちも、お互いにきちんと学べるような環境づくりは進めていきたいと思っておりますけど、最終的には、複式学級というのはどこかの時点で解消していけるような方法を考えていく必要がなければ、本当に子供たちが将来的に学校を離れて社会に出たときに、人間関係がうまく築けなくて、いろんな不適應をおこしてしまう状況もあります。これについては取り組んでいきたいなと思っております。私の立場で教育に求められている部分でいいますと、コミュニティ・スクールがこれからスタートいたします。今までは学校の課題、地域の課題それぞれ2つ課題があったと思うのですが、これからは学校の課題は地域の課題になってくると思います。地域の課題は学校の課題になってくると思います。先ほどの少子化の問題もそうですけど、家庭の教育力の問題もそうなのですが、学校と地域がいかに町内で距離感を縮めて一緒に子供を育てていくかという学校づくりができれば、いろんな課題が解決できるのではないかなと期待をしておりますので、今私の立場での求められる教育のあり方、課題はコミュニティ・スクールです。地域と共にある学校をどうやってつくっていくか、私は1番大きな課題として捉えております。

○委員長（小西秀延君） 松本教育委員。

○教育委員（松本 功君） 予算については、たくさんつけていただけるようよろしくお願いいたします。教育長もお話をしたとおり、私も10年以上教育委員をやっています、学校統合についてかかわってきました。いろんな地域のこととか大人の都合とかいろんなことがあるかと思っておりますけど、最終的に何を考えるかというのは、子供たちが正しく学習ができる環境を整えるのが私たちに課せられたことなのかなと思います。社台にもお邪魔したこともありますし、複式学級のところもお邪魔したこともありますけど、あの環境を見ると、将来高校生になったときに大きな不安があるのかなと思いました。今後の白老町の適正配置、いろいろと難しいこともありますけれど、そのようなことを踏まえながら地域の人達と話し合いをしながら複式学級を解消していきたいなと思っております。

○委員長（小西秀延君） 野瀬教育委員。

○教育委員（野瀬征宏君） 私も松本委員と同じなのですが、少子化の中で少なくなっていく中でどのような教育を受けるか、本当にいろいろ少年団を指導してきたのですが、少ない中で社会に出たときにどれくらい成功させられるのか、本当に社会に出たとき少ない子供たちが本当に対応

できるのかということをしっかり見定めて、正直見ていてできる子供は、どんなに少なくとも社会に順応していきます。できない子供をある程度環境におきながら、いじめっこ、強い子供がいたら少し横にずれる、そういう場も子供のうちにできる環境をつくってあげるのが、社会に出たときにいかに成功しているか、数値でいったら申しわけないのですが、その可能性を少しでも通用する子供たちを多くしていく、全部が全部できるとは正直思わないのですが、そのような環境において、できれば本当は2クラスありながら、うしても仲が悪かったら学校で協議して次の学年では分かれるというのができるのですが、そこまでいかない事情もあるのです。たくさんの中でたくさんのいる社会に順応できる子供たちを育て上げるのが義務教育ではないのかなと。そのうちの環境をきちんと見定めて適正配置などやっていたらいいかなと。そこが近々の課題であるのかなと。50人という数字が4校あるということは割ってもらえれば少なくなる。ましてはこちらのほうは少ないわけですから、そのような環境の中で切磋琢磨できる状況をきちんとつくれるのかどうか、第一の課題だと私は思っています。

○委員長（小西秀延君） 吉良教育委員。

○教育委員（吉良哲子君） 私は野瀬委員と松本委員と同じなのですが、複式学級は本当に子供たちが大変な環境だなと思って見ていましたので、地域、保護者の皆さんと協議して統合していける方向に持っていったらなと私は常々思っております。白翔中学校の野球部が全国大会に行くということで寄附を各地域でお願いしたり、古紙回収を一度したのですが、個人的に持って行くと金額が安くてかわいそうだねということで、3R推進協議会のほうで町のほうの認定を受けると倍ぐらい入るよということで、急ぎょ申請して1月には申請を受け1月末に虎杖浜地区で少し集めたのですが、またこれから部費とかユニフォームを揃えたり道具を揃えたりするには、子供たちも保護者と一緒に周っていくという連絡をすれば皆さんが協力的です。虎杖浜でも昔古紙回収をされていてそういう部活とかに当てていたことがあったので、そのようにしたらどうですかと、そのように申請して周ってやりますということで1月22日にやって活動を助言したことがありました。子供たちと親と協力して自分たちがこれから活動していく上での資金というのを体で体験していったらということで進めました。

○委員長（小西秀延君） 各教育委員さんからご意見をいただきましたが、最後に何かあれば。大体よろしいですか。予定を超える時間皆さんとお話をいただきまして大変ありがとうございました。教育委員さんとの懇談はここまでということで、教育委員さんお疲れさまでございます。

○委員長（小西秀延君） 暫時休憩いたします。

休憩 午前11時35分

再開 午前11時35分

○委員長（小西秀延君） 休憩を閉じて会議を再開いたします。

各学校の現地調査、先ほどの教育委員さんとの懇談という形で進めさせていただきました。これからまとめに入りたいと思うのですが、少し予定していた時間より短くなっております。足りないようでありましたらまた別日程を組みたいと思いますが、皆さんからご意見をとりあえずいただいで進めてまいりたいと思います。まとめに関してご意見のお持ちの方はどうぞ。

吉田委員。

○委員（吉田和子君） 最初に教育委員会が頑張ったこと、耐震化が平成30年度に100%になると、胆振管内でも今は95%、統廃合もあるので、私もずっと質問してきた立場なのでもう質問しなくてもいいなと思っているのですが、100%になるということでその努力は評価したいと思っております。

図書館なのですが、何年前でしょうか、総務文教常任委員会で前図書館を視察したのは、国の図書司書の配置、各学校の配置、町に配置されて司書が図書館を全部作り直したのです。そのことが司書をずっと配置することで維持しているということが、子供たちが使いやすい図書館になっていることを評価したいと思います。図書司書は各学校にいるべきだと思っていますので、司書の配置はふやしてもらいたいというのは、常に図書室へ行くと司書がいて相談したり、子供たちが図書室と連携をとって図書の本を借りることができるということは大きな課題だと思っていますので、方向性を目指してもらいたいと思っています。

特別支援教室ですが、昔は考えられなかった施策なのだなと捉えて見ていました。大きな施設、地方の施設に預けるというのが多かったのが、地元で地元の学校へ通いながら自分の障がいにあった教育を受けられる体制ができるということは、子供にとっても親にとっても幸せなことではないのかなと思います。発達障がいの子供たちが多くと教育長が話していましたが、学校で一生懸命やったことが家庭に帰るとゼロに戻ったり、マイナスになることも聞いていますので、家庭との連携を取りながら特別支援学級をいいものにしていってもらいたいと思っています。

○委員長（小西秀延君） 耐震が平成30年度で100%になるということは、委員会としても一定の評価をしたい。図書館、図書司書が配置されたということでもずいぶん機能的にましているということでそのことは評価したいが、加配も今後求めていきたいという形でよろしいですか。特別支援学級は、各障がいにおいておのおのの教室があり、家庭との連携でよりよいものにしてほしい。一定の評価をするがよりよいものにしてほしいと。

前田委員。

○委員（前田博之君） 学力向上については、白老町スタンダードをもとに各学校が認識して努力されている部分については理解すると。しかし、各学校の取り組みによっては、萩野小学校、竹浦小学校は標準学力検査、学力テスト以外の独自の町のテストについての結果考察を数値化して、各教師、保護者が情報共有して、それらに到達するための努力が見られる。ですから、具体的に数値を出し、それを分析して学力に向上を結びつける具体的な手法が各学校必要ではないかと、私は思います。それが今教育委員会で進めているもの、目標に近づけるし、全国学力テストの標準にも近くなってくるのではないのかなということで、各学校が調査分析したものを目標数値と定めて向かう学力向上が必要かなと思います。先進地の例を十分に、教育委員会のみではなく、学校全体が教員も認識した中で、それらを十分に参考した授業力を高めていただきたい。学校や先生に頼るのではなく、地域、家庭学習の向上が必要である。そのための指導、取り組みは教育委員会が率先して一定の方向性で取り組むべきだと私は思います。あとは複式学級と統廃合の関係について今意見があったので、委員長、副委員長で意見をまとめておいてください。

○委員長（小西秀延君） 学力向上においては白老町スタンダードをもとに各学校で努力している

ことは見受けられ、一定の評価はできる。しかし、その中にあるのは、学力テスト以外に考察としてチャレンジテスト等を行い、数値化し、分析し学力向上に向けたケースも見受けられた。教育委員会として全町的な取り組みになるよう改善が望まれる。先進地事例なども参考とし、今後の指導に当たっていただきたい。統廃合についてはどうでしょうか。教育委員さんの話を聞くと複式学級の解消がおおむねの意見であったような気がするのです。

○委員長（小西秀延君） 前田委員。

○委員（前田博之君） 最終的に複式学級の解消と言っているけど、教育委員さん方は現状を見れば統廃合しかないような言い方をしているけど、教育長ははっきり言ってないけど、私は良く解釈すれば、不可能かわからないけど、複式学級を解消するという事は、地域に少しでも人がふえて、地域の中で解消したいのだよと、その手立てを言わなかったけど。私は、本来は地域振興をかねて人口をふやして、なるべく複式学級をなくするという事ではないかと。最終的には統廃合しかないけど。

○委員長（小西秀延君） 吉田委員。

○委員（吉田和子君） 教育委員会の複式学級の問題のあり方というのか問題がないのかという議論の中で、もし取り上げるのであれば、複式学級を実施している学校もあるけれども、子供の将来的なことを考えてどうあるべきかということ、真剣に考えてもらいたいという報告でいいのではないのでしょうか。

○委員長（小西秀延君） 大淵委員。

○委員（大淵紀夫君） 大淵です。その部分は総務文教常任委員会でその議論はしていない。それは教育委員の意見です。それは載せるべきではないのです。そうしてしまうと、各団体の意見が、全部総務文教常任委員会が結論を出したことになる。違うのです、全然。その議論はこの場ではしていないのです。そこは私は載せるべきではないというのはそういう根拠なのです。ただ、教育委員の皆さんとの懇談は非常に有意義であったとか、そういうことを私は書くべきだと思うのです。

○委員長（小西秀延君） 吉田委員。

○委員（吉田和子君） 教育環境についての視察ですので、複式学級をやっているということは何となく私の中に残ってしまったので、取り上げる上げないは別にしても、私たちが委員会として実態を捉えながら、今後のあり方を議会で質問なりして何かの形でやっていくのもいいのかなと思います。報告に載せるのには少し中途半端かなという感じがします。

○委員長（小西秀延君） 及川副委員長。

○副委員長（及川 保君） 私が報告にまとめてほしいなと思うことは機材なのです。教育委員会の方も言っていたのですが、どうやったら予算化できるのか。更新時期にきているのです、パーソナルコンピュータが。学校全体なのです。前回一度にやったという経緯があるものだから一度に更新時期にきている。これの対策を先ほども委員長と話していたのですが、逆に一度にやるのではなくて空けて何年か待ってもらおう。でもパーソナルコンピュータのソフトウェアに期限があるので一度にやるしかないのですかね。まちに対して費用をどうするか、悩ましいことだけどもきちんと対応すべきだと載せてほしいと思います。

○委員長（小西秀延君） 教育機材で先ほど教育委員さんとの懇談で、前田委員から液晶テレビ、実物投影機そういうものも足りていない現状にありますので、順次計画的に、今後、及川副委員長もおっしゃったパーソナルコンピュータの更新時期も迎えるので、順次計画的な更新、配置を図っていくべきであるという形でお伝えをするということによろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小西秀延君） 吉谷委員。

○委員（吉谷一孝君） パーソナルコンピュータについては、全校足りない状況ではなくて、全て配備されているからいいのですが、実物投影機と液晶テレビに関しては学校によって差があったのです。私がとどめているのは虎杖小学校で足りないという話を伺っているもので、学校ごとに差があるのは私は問題だと思うので、そこについては早期に解消するべきだと思いますので、委員会としてまとめて報告したほうがいいのかなと思います。

○委員長（小西秀延君） 全学校として教育機材全般という形でここではICT機材ということで特化していますが、教育機材全般きちんと整備するべきである。また、その後迎えるパーソナルコンピュータの更新など計画的に配備を検討するべきであるという形によろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小西秀延君） まとめに記載すべきものはございますでしょうか。

西田委員。

○委員（西田祐子君） 白老中学校の最後のところに、貧困で教材も買えない話がありましたので、教育問題の中で貧困というものに対して、町側に親から差し引いてもらい教材費に回してほしいというのを税務課のほうにお願いをしたけどだめだったということを白老中学校で話しができました。教育現場ばかりではなくて町全体で考えてあげないといけない問題なのかなと私は思って聞いていました。

○委員長（小西秀延君） 少し書くにはなかなか難しいかなと思うのですが、どのような形がよろしいですか。

大淵委員。

○委員（大淵紀夫君） これは個々の問題で書いてしまったらだめだと思うのです。全体として子供の貧困化が進んでいるのは事実なのです。子供の食育などが取り組まれている。教育長も言っていましたけど厚真町が10%以下、書くのは別です。考え方として準要保護の基準が生活保護の1.5、白老町は1.1なのです。1.0というところもあるのです。要するに生活保護とイコールというところもあるのです。現実的に厚真町は農村のまちだからあのようなのです。だけど実態は違います。だけど10%以下は脅威です。1.5というのも事実としてあるのです。その認識を我々がきちんとするのはです。実際に隣のまちはそうなっているからです。書くことはなかなか難しいのですが、子供の貧困化が白老町は異常に進んでいるのは事実です。白老町は30%越しているということは異常です。これを議会が指摘しないのは私はおかしいと思うのです。それに対する対応策は教育委員会だけではできないのです。町全体として考えるべきである。私は1.5に書いてほしいけど、合意は得られないから。そこは指摘しておかないとだめです。何のための所管事務調査かとなってしまいます。指摘はきちんとするべきだと思います。何らかの対応策は取るべきだと、教育委員会含めて取るべ

きだというあたりは書いたほうが良いと私は思います。

○委員長（小西秀延君） 吉田委員。

○委員（吉田和子君） 貧困格差というのは、そういったものを買うことのできない、必要なものがないという準要保護の充実も大事なのですが、そのことによる学力の格差というのも影響している可能性も出てきているということも事実なのです。私も言わないで悩んでいました。それを書いて、教育長が言っていたのですが、貧困の人とは言わないで塾の行けない子供たちを対象に勉強会をされているということをお話しされていましたので、言葉と表現が難しいと思っていますので、先ほど大淵委員がおっしゃったように、白老町の貧困格差は全国に比べて進んでいるという現状があるということで、全町で実態調査をしながら対応していくべきではないかと思っています。している市町村はしているのですが白老町はしていないのです。だから議論していないので調査しなさいといっているのかわからないのですが、対応は今後着実にしていくべきだと思います。各学校でも言っていますので、いいと思います。

○委員長（小西秀延君） 暫時休憩いたします。

休憩 午前11時59分

再会 午後0時2分

○委員長（小西秀延君） 休憩を閉じて会議を再開いたします。

貧困についてのご意見が出されました。子供の貧困化率の増加が当町は他町村に比べ著しく増加の状況にある。そこへの町の対応が現在望まれるものである。また、子供の貧困化率の増加で学力の格差も見られるということであり、それにも教育委員会としての対応が望まれるところである。町と教育委員会と、という形にしたほうが良いのかなと思います。よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小西秀延君） そのような状況を委員長、副委員長にまとめ方ご一任をいただいて、皆さんに1回見ていただくという通常のやり方で進めたいと思いますがよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小西秀延君） 西田委員。

○委員（西田祐子君） 統廃合が進んで白老町の小学校も統廃合して、中学校も統廃合して、現在落ち着いているということは委員会で評価してあげたほうが良いのかなと思います。

○委員長（小西秀延君） 今回の調査項目に入っていないので、それに触れてしまうと、今後の統廃合についても触れていけなくなると思いますので、そこは今回除くということで、調査項目に入っていないので除かせていただいてよろしいですか。

○委員（西田祐子君） わかりました。

○委員長（小西秀延君） ほかに載せておくことはありますでしょうか。大体そのようなことでよろしいでしょうか。まとめさせていただいたものを皆さまに見ていただくというような、その後、ご意見を頂戴して訂正等をしていきたいと思っています。

◎閉会の宣告

○委員長（小西秀延君） 以上をもちまして、総務文教常任委員会を閉会いたします。

（午後 0時 5分）